

在京花巻人

発行 在京花巻人会
連絡事務所

東京都中央区東日本橋
3-5-9 市川ビル3階
電話 03-6661-1925

新年ごあいさつ



花巻市長 上田 東一



あけましておめでとう
ございます。

ふるさとから謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、在京花巻人会の皆様には、日頃より格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は本市ゆかりのスポーツ選手が大変活躍した年でありました。大谷翔平選手は、ロサンゼルス・ドジャースへ移籍し、ワールドシリーズ優勝のほか、個人成績では、メジャーリーグ史上初の50本塁打、50盗塁を達成し前人未到の歴史的

大記録に歓喜と称賛の声が広がりました。

パリオリンピックには自転車トラックレースに花巻市出身の中野慎詞選手が出場し、メダルまであと一歩に迫りました。また、男女混合競歩リレーに花巻北高等学校出身の高橋和生選手が出場し、ひたむきにゴールを目指す姿は市民に勇気と感動を与えてくれました。このほかに市内の小・中学生や高校生、大学生が数々の大会で素晴らしい結果を残しており、今後も活躍が期待されます。

また、花巻市博物館開館20周年記念特別展として、7月20日から9月23日まで、スタジオリブリの原点を振り返る「アニメーションとジブリ展」を開催いたしました。花巻市民はもちろんのこと、

県内外から多くのジブリファンにお越しいただき、この期間中の来館者は約8万人と、大変好評でした。

市政においては、花巻市のまちづくりの方向性を示す最も重要な計画である第2次花巻市まちづくり総合計画を策定いたしました。将来都市像を「豊かな自然 安らぎと賑わい みんなでつなぐ イーハトーブ花巻」と定め、市の最重要課題である人口減少の解決に向けて、子どもや子育て世帯に対する支援、若者や勤労世代が住みたい、住み続けたいと感じてもらえるよう、重点プロジェクトとしてまちづくりに積極的に取り組んでいきます。

結びに、在京花巻人会のますますの発展と、会員の皆様にとつて本年も健やかで幸多き年でありませうとお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

年頭所感



在京花巻人会

会長 瀬川 紘一

新年明けましておめでとうございます。皆様とつて今年が幸多き年となりませう、心より祈念申し上げます。

さて、米国のことかと思つていたら、日本でもフェイクニュースや陰謀論がはびこり始めました。社会の分断が原因だとすれば、貧富の差の拡大や外国人居住者の増加などに対応できていない日本で広まるのも当然かもしれません。又、明らかに事実でも強者が言い張れば無かつたことになつたり、うやむやにされるのを度々目にします。

心配なのは、何が真実かが曖昧になつてくること、自分の事すら判らなくなる、人々の自己喪失に繋がる恐れがあるからです。トランプの米国も心配ですが、ポピュリズムの政治家や独裁者が現れた時に、人々の主権者としての自己が喪失されていたら待つていのはデストピアです。

ピアです。

ニューロ（神経）テクノロジーは頭の中のことをほぼ全て把握できる可能性があるとのこと、更に技術が進めば脳に信号を送り思考や感情を操作出来るようになる危険視されています。ところが、また昨年後半から匿名・流動型犯罪が多発していますが、通信アプリからの指令で淡々と強盗事件を実行している若者達は、ニューロテクノロジーを待つまでもなく、既に自己喪失をして操作をされているように見えます。

そこで、考えるのが米国の哲学者ジョン・デューイ(1859～1952)が取り組んだ「民主主義と教育」です。デストピアを出現させないためには民主主義を守ることに、そしてそのためには教育が課題となるからです。デューイは、民主主義は政治の一形態ではなく「協同的な生き方、協同的にコミュニケーションが行われる経験の様式」

と定義していますが、米国の大学の同窓で友人でもあつた新渡戸稲造の民主主義「平民道」に重なります。

「教育」は「コモン(公共)・コミュニケーション、コミュニケーションの中で異なる他者と共に生き、経験し成長すること」だと説きます。今まさに自己確立の教育の場であるこの3Cが、社会から失われつつあると思います。その「コモン」と「コミュニケーション」において「教育」は、やはり地方でこそ実現可能であり、地方が鍵を握っています。今年も引き続き花巻に注目し応援したいと思います。

令和7年度「第39回在京花巻人のつどい」のお知らせ

日時：令和7年7月5日(土)11:30～14:30
会場：東京ガーデンパレス
住所：東京都文京区湯島1-7-5
電話：03-3813-6211
アクセス：JR御茶ノ水駅 聖橋口

会員の活動報告コーナー

第28回歩こう会 開催の報告

理事 梅津 豊

11月29日(金)、午後2時、JR東日本南千住駅集合、参加者32名、行程約4.5km、「西の市」の鳳神社をゴールに、のんびり歴史散歩の会となりました。

歩いてすぐに俳聖「松尾芭蕉像」、千住は大垣まで約2,400km「奥の細道」のスタート地点、奥州平泉の「夏草や兵どもが夢の跡」は有名です。

次は、小塚原刑場と延命寺/回向院です。明治に廃止されるまでサッカー場程の敷地で約20万人モノ処刑が行われました。南部藩の「相馬大伴事件」から政治犯も処刑



されるようになり、吉田松陰、橋本佐内、水沢藩の高野長英も処刑されました。

「解体新書」の碑、「吉展ちゃん事件」の吉展地蔵尊もあります。

荒川区61町の総鎮守「素戔嗚尊神社」を過ぎると、いよいよ「千住大橋」です。

隅田川最初の橋は伊達政宗寄進の木材「高野槨」が用いられたことは余り知られていません。当時の杭が発見され、参加者は川面に浮かぶ目印のブイを見ながら、400年前の伊達政宗公に思いを馳せました。

「丸の千住、シルクの富岡」と云われた日本初の「毛織物工場跡」、上野寛永寺黒門の「円通寺」、都電「三ノ輪橋駅」、「投込寺」と云われ「生まれ

ては苦界 死して浄閑寺」と詠われた「浄閑寺」、金太郎給本舗、「樋口一葉由来の「稻荷神社」、鳳神社」で無事にゴール。お楽しみは中華屋で二次会、ビールで喉を潤し午後7時30分でお開きとなりました。

笑顔の記念写真は南千

住第2中学校の生徒さん撮影です。アンケートには「旧街道を巡る」もありました。皆さんお疲れ様でした。次回は春、又会いましょう。

アリオ川口店で開催の「花巻市フェア」を応援

理事 佐々木 哲男

昨年の10月19日(土)20日(日)、イトーヨーカ堂アリオ川口店で花巻市フェアが開催されました。

在京花巻人会は、在京石鳥谷町人会、在京東和町友会と共にわんこそば大会で給仕役を務めました。花巻人会の瀬川会長夫人、石鳥谷町人会の高橋会長、川村副会長、東和町友会の佐々木(公)副会長を中心に各ふるさと

会の理事、会員が見事にチームワークを発揮しました。やぶ屋さんの指導で事前練習から本番補助本番、後片付け等大活躍でした。佐藤さんの行司、小原弘一さんの相撲甚句で大会が盛り上がり優勝者は全国大会の出場権を獲得しました。素晴らしい体験をして頂いたと思います。

「鹿踊」を鍋倉保存会の皆様が勇壮に披露し大勢の来場者から拍手喝采



を浴びました。鹿たちとの記念撮影も大人気でした。

1階のセンターコートに花巻の美味しい物や伝統工芸品が勢ぞろい。白金豚、エーデルワイン、早池峰ヨーグルト、マルカンアイス、佐々長のつゆ、金婚漬、あんぱん、呑んべえ漬、ほろほろ鳥、べつたら漬、りんご、花巻傘、成島和紙、さき織等どれも花巻を感じさせる物でした。

会員様のご来場ご支援に感謝致します。お陰様で幹事としての役目を果たすことが出来ました。有難うございました。

イーハトーブの風をもらって
〈宮沢賢治ペンベロ朗読会〉
を終えて

理事 (ペンベロの会会員)
須藤 美智子

昨年の11月30日(土)月島区民館において、谷口先生ご存命から通算93回目の朗読会を開催しました。参加者は21名でした。

この度は花巻人会との連携により、理事会から3名の男性の仲間入りが実現しました。ネイティブの花巻弁ができるメンバーが加わったことで、郷土喜劇「植物医師」をメインの朗読作品にすることができました。この作品に登場する農民の台詞はすべて花巻弁で表記されており誰でもできるものではない作品だからです。台詞は、読むものではなくその人物になりきって話すことで気持ち

を伝えることができるのです。しかも、「植物医師」は喜劇です。朗読だけで喜劇として伝えられるかが勝負でした。

結果は、重要な最後の場面何度か笑いが起こりました。そして、「花巻弁は意味の解らないところも多かったが、雰囲気は伝わった。結末が印象に残った。」方言の響きがやさしくて、心地よかったです。二会員の個性が活かされて厚みがあり面白かった。一等々の感想を貰うことが出来ました。

進行上の反省点は多々ありましたが次回の課題

として活かし、皆様からいただいた温かい拍手を支えとして、更に良い朗読会を目指してまいります。



都庁の「花巻観光物産展」を訪ねて

会員 (45年湯本中卒)
菊池 宗司

去る11月4日(月)東京都庁1階南側にて開催の「花巻市観光物産展」に花巻イーハトーブ大使として、また日ごろ花巻市にご支援いただいているクリエイト新興の花巻はちみつのお礼も兼ね、販売応援に行ってきた。

当日は文化の日の振替休日ということもあり、会場は大勢のお客様で賑わっておりましたが、観光課の伊藤さんや観光協会的小田島さんにご丁寧な対応を頂戴しました。

私も他のお客さんの邪魔にならぬよう、花巻名産品の「白金豚燻製」「金婚亭・青なんばんみそつ

「こ胡瓜」「早池峰ヨーグルト」「花巻南部せんべい」等々、大いに買い物を楽しませてもらいました。

また、平日には都庁職員の方々もお客様として来てくださったとのこと、大盛況となったようで有難く思いながら、花巻物産展会場を後にしました。なお、買った名産品はあまりに美味しくて当日の晩酌で消えてしまいました！(笑)

「いしとりやフェスタ in TOKYO 2024」に参加して

理事 多田 善利

11月4日開催の在京石鳥谷町交流会に、当会から瀬川会長、佐々木健一理事と3人で出席しました。当日は秋晴れに恵まれ、172名もの多くの方々に参加されました。特に石鳥谷出身市議全員、の招待や地元石鳥谷の各地域協議会役員等約50人が参列されるなど、参加者を増やすための努力がなされていると感銘を受けました。また、従来の固いネーミングは、多くの方々・特に若い方々に受け入れ難いのではと協議を重ね、今回から見出しのとおりに変更したそうです。総会では、八重

樫和彦花巻市副市長、藤原伸花巻市議会議長の祝辞があり、親睦交流会へと移りました。

アトラクションは、春日流八幡鹿踊り、フラダンス、歌手・こころ妃富美の歌謡ショウ、ボラーチヨスの南米音楽演奏と多彩なゲストが会を盛り上げました。お楽しみ抽選会も行われ、当瀬川会長が見事、新米と長ネギを引き当てました。そして最後に、大迫出身・菊池裕さんの石鳥谷へのエールで幕を下ろしました。古里の酒っこや郷土料理を美味しく頂き、その上、バッグに入り切れないほどのお土産も頂戴し、さすが石鳥谷と感激致しました。

石鳥谷の皆さん、有りがとう御座いました。



「第44回在京東和町友会の集い」に参加して

昨年11月10日(日)に御茶ノ水のガーデンパレス天空の間に於いて、第44

回目の「在京東和町友会の集い」が開催され参加してきました。

昨年蟹澤前会長からバトンタッチした鎌田節郎さんが会長として初めて開催する「集い」でしたが、主催者代表挨拶からスムーズに進行、総会議事も滞りなく承認され懇親会となりました。

花巻市の八重樫和彦副市長と内館桂市議会議副市長の来賓挨拶と祝辞があり、金ヶ崎人会の阿部敬会長の乾杯の発声で懇親会がスタート、和やかな雰囲気の中で歓談が始まりました。内館副議長は東和出身ということと、地元東和の現況について詳しいお話があり、会員の皆さんの会話に弾みをつけたようです。

歓談の間には、東和作戦会議の薄衣忠孝代表理事が地元東和での地域おこしの活動紹介、その後は恒例のフラダンスの熱演がありました。アトラクションの最期には、「ものがたりグループポランの会」のさいきかおり代表から会の活動紹介がありました。

締めは、「北国の春」を全員で合唱し、盛り上がりの中でお開きとなりました。又、飲み足りない参加者はホテル内の会場

の飲み放題の二次会に向かいさらに盛り上がったようです。(編集部)



「北上ふるさと会の集い」に参加して

会長 瀬川 紘一

昨年11月9日(土)、御茶ノ水の東京ガーデンパレスで開催された「北上ふるさと会の集い」に参加してきました。

11時30分に総会が開始され、渡邊嘉二郎会長のご挨拶があり、昨年来任に就任した八重樫浩文市長他が祝辞を述べられました。その後、議事はスムーズに進行され、つづがなく総会が終了しました。

12時からは「情報交換会」で北上市の斎藤昌彦企画部長から、2024年度の北上市の主要な出来事が紹介されました。人口減が1年で100人台とのこと、盛んな企業誘致で活性化している北上市



の現状を知ることが出来ました。特に市立大学の設置を検討しているとのこと、詳しい説明がありました。

続く恒例の「昔語りへの誘い」では、二人の語り手が登場し、「泥棒の手」と「お嫁さんになったねこ」が語られました。が、現代的な話で楽しめました。

懇親会は12時45分に若手県東京事務所の高橋孝政所長の乾杯でスタート。恒例の二子流東京鬼剣舞の演舞が披露され、96歳の女性の踊り手の方には大きな拍手がありました。その後抽選会があり、折笠名誉会長作詞の「そんな街、北上」と、北上夜曲、北国の春が唄われ、最後は恒例の輪になっての踊りがあり、閉会となりました。

「第38回紫波町ふるさと会」に参加して

理事 伊藤 準

今回「紫波町ふるさと会」に出席して感じた事は、在京花巻人会、紫波町ふるさと会、共にそれぞれの良さを持つているという事です。私が推測するに、紫波町ふるさと会は在京花巻人会と違いそれぞれ担当する人の業務経験が長く、どうしたらよりアピールできるかを考えて業務に取り組んでいるような印象を受けました。対外的にはある意味アピールする力があり、迫力がありました。

但し、人により受ける印象はさまざまとどちらが良いとは言えませんが、花巻人会のメンバーの人がどちらにより共感するかという事だと思えます。ただ、これは結論の出る問題ではないと思えます。但し、今後の事を考えると、若い人によりアピールする事が大切だと思えました。



《はなまき あれこれ》

花巻市令和5年度決算について

市の令和5年度の決算が、昨年9月の定例議会で承認されました。一般会計の歳入629億9141万円、歳出608億4897万円で差し引き21億4244万円、翌年度の事業充当繰越金を差し引いた実質収支は17億1286万円の黒字でした。

歳入の前年度比では、寄付金の増加などで歳入全体が51億9923万円(9.0%)増加。歳出は、価格高騰緊急支援給付金の増加やイーハトーブ花巻応援基金積立ての増加などで、歳出全体で59億8546万円(10.9%)の増加でした。

健康保険や介護保険などの特別会計の決算は、歳入222億9562万円、支出が221億4048万円で差し引き1億5514万円と健全な運営でした。

3億円以上の主な事業は、企業誘致推進事業、産業団地整備事業、医療費助成事業など。特徴的なのはコロナ対策と物価高騰対策費で合わせて21億3014万円の支出ですが、市の一般財源負担は3億611万円であり残りは国や県の補助金を活用します。

市の財政状況は、国の健全化基準を全てクリア。一般会計の基金(貯金)の残高は141億円。市債(借金)は前年度と比べて46億円の減少で852億円、この内一般会計における市独自の財源からの実質的将来負担額は地方交付税として受ける額などを除くと126億円、一般会計以外では336億円と前年度比19億円の減少でした。

(広報はなまき10/15号より)

花巻市令和5年度ふるさと納税額全国13位

総務省の令和5年度のふるさと納税受入額調査では、花巻市は90億6千万円(受入件数約61万件)で全国13位となっています。(花巻市ではふるさと納税を「イーハトーブ花巻応援寄付金」と呼称。)ちなみに、1位は宮崎県都城市の193億8400万円となっていますが、他に東北の市町村で20位以内に入っているのは12位の宮城県気仙沼市だけ、金額は94億8900万円です。又、岩手県では花巻市の90億円は断然のトップで、2位の奥州市は21億9200万円と、大きく引き離しています。

やはり、花巻市への好感度が全国的に高いということでしょうし、花巻出身者や花巻にゆかりのある

方々が応援してくれているからだと思います。有り難く、身の引き締まる思いがしますが、在京花巻人会としても好感度をさらに高めるべく、様々な活動や情報発信などに努めて行きます。

昨年1月号の会報で令和4年度のふるさと納税(46億847万円)の活用内容について報告していますので参考にして下さい。令和5年度の寄付金の使い道は次号で報告します。なお、市は令和5年度の決算では約25億の返礼品や人件費の事業費を計上していますが、イーハトーブ花巻応援基金積立金を新たに設けるなど、その活用方法に工夫を凝らしています。

(総務省ホームページ他から)

米国・オーストリアの姉妹都市と活発な交流活動

花巻市の姉妹都市の米国アーカンソー州ホットスプリング市から、9月10日～15日16名の市民が市を訪れました。訪問中には歓迎交流会に参加するとともに、花巻まつりで神輿担ぎを体験するなど市民との交流を楽しみました。又、同市ファウンテンレイク小学校と一昨年3月に閉校となった笹間第二小学校との姉妹校を引き継ぐための再調印式が笹間第一小学校で行われました。

一方、花巻市の友好都市のオーストリア共和国ニーダーエスタライヒ州ベルンドルフ市からは9月

17日～23日に生徒12名と教員1名が市を訪れました。教師と生徒13名は学校訪問やホームステイなどを通じて市民と交流。20日には大迫町・ベルンドルフ市友好会主催の歓迎交流会が開かれ、生徒らが浴衣を着て参加し日本文化を体験しながら市民と交流を深めました。

(広報はなまき10/15号より)



第34回宮沢賢治賞・イーハトーブ賞受賞者が決まる

第34回の宮沢賢治賞・イーハトーブ賞受賞者が以下のように決まりました。

賢治に関する優れた研究・評論・創作に贈られる宮沢賢治賞は、「宮沢賢治 生成・転化する心象スケッチ」の著者の杉浦 静氏に決定。賢治の草稿などの内容の変遷とその生涯の位置づけを精密に検討し、実証的草稿研究と思想レベルの研究を統合したことを評価。

賢治の精神を体現する優れた活動に贈られるイーハトーブ賞は、木版画家の伊藤卓美氏に決定。長年「賢治」と「民俗芸能」をライフワークに賢治作品の

版画を制作、又各地の民俗芸能を詩情あふれる作品にしたことを評価。

同奨励賞は、ペルシャ語翻訳の賢治の詩集と童話集をイランで刊行したアスイエ・ザベル・モガッドムさんと、賢治の童話や詩を題材にした細密絵画制作や、戦争やハンセン病など社会的なテーマでの制作活動が評価された海津 研さんに決まりました。(広報はなまき9/1号より)



杉浦 静さん

大いに賑わった「花巻まつり2024」

430年の歴史を誇る「花巻まつり」が昨年9月13日～15日の三日間開催され大いに賑わいました。3年間コロナで中止の後2023年に復活し、昨年は復活2年目となりましたが、人出は前年より3千人多い人1万5千人と過去10年で最多、完全復活となりました。

風流山車は12台、お神輿も子供神輿を入れると100台を超えたとのこと、特に「鹿踊パレード」には18団体から約150名の踊り手が参加し壮観でした。また、初日のラストを飾った「群舞かがり火鹿踊」では、市内6団体67名の幻想的な演舞が観客の目を釘付けにしていました。

観光客の一人は、たまたま東北旅行に来たら花巻



まつりの時期に当たり、とても楽しんだとの事。町中が参加している感じでとても暖かい雰囲気にも溢れ、このようなローカルなお祭りはなかなか見られないとのコメントが印象的でした。

(広報はなまき10/15号他から)

まちを彩るルンビニアートin花巻上町

社会福祉法人光林会が運営する「るんびにい美術館」(市内星ヶ丘)に所属する障害のあるアーティスト達が、昨年9月1日から10月31日まで、上町商店街とマルカンビルを装飾する花巻市主催の「ルンビニアートin花巻上町」が開催されました。

期間中、マルカンビルはルンビニアートでカラフルに装飾され、1階ではルンビニアートの原画展が開催されました。又、上町商店街内8カ所でスタンプを集めるスタンプラリーも行われ、スタンプを集めて抽選で選ばれた3名にはルンビニアート作品集がプレゼントされました。さらに8月3日に

は、高校生を対象にワークショップも開催され、その中で講師の小林覚さんがマルカンビルに掲げる懸垂幕を制作しました。

市は、これまでもJR花巻駅をラッピングした<HANAMAKI ART STATION>などで、市内をルンビニアートで幾度も彩って来ているとのこと。

(広報はなまき9/1号他より)



「JAいわて花巻」のリンゴが大好評

JAいわて花巻によりますと、夏の猛暑で栽培環境は年々厳しさが増しているそうですが、昨年は何とか例年レベルのリンゴが提供出来たようです。

管内では、花巻市、北上市、遠野市を中心におよそ450人の生産者が四季を通じてリンゴ園の管理に努め、真心を込めリンゴを育てているとのこと。JAいわて花巻のリンゴは関東・関西の消費者から評価が高く、中でも、「賢治りんご」はオリジナルブランドとして糖度13度以上、蜜入り指数2.5以上という

数値をクリアした「サンふじ(無袋栽培のふじ)」で、全国各地の消費者から好評を得ているそうです。

管内で生産されているリンゴは、早生種(8月下旬～9月下旬)は「紅ロマン」「つがる」「きおう」、中生種(9月下旬～10月下旬)は「紅いわて」「ジョナゴールド」、晩生種(10月下旬～11月下旬)は「ふじ」「王林」「はるか」など多種あり、それぞれ違いを味わってもらいたいとのこと。

(「ぼらーの花巻」9月号より)

花巻東は秋季高校野球東北大会決勝ならず

昨秋の秋季高校野球東北大会で花巻東は惜しくも準決勝で敗退、春の選抜の出場は難しくなりました。

同校は、岩手県大会では決勝に進み、昨年9/29の決勝戦で一関学院に6対4で敗れ準優勝でしたが、県の第2代表として東北大会に進みました。

東北大会は昨年10/12に福島県で各県3チーム計18チームが参加して開始。同校は13日の2回戦から出場、秋田1位の秋田商とは8対0のコールドゲームで勝利。16日には準々決勝で山形1位の鶴岡東高とは2対1で勝利し準決勝に進みました。19日の準決

勝では青森1位の青森山田と対戦、もう1勝で春の選抜当確でしたが、残念ながら4対1で敗れました。決勝は青森山田と福島1位の聖光学院が対戦、聖光学院が3対2で勝利し優勝しました。

春の選抜は東北から3校の出場ですが、聖光学院が決勝で勝利したため、3校目は準決勝で聖光学院に敗れた山形中央が有力とのこと。出場校発表の1/27を待ちましょう。

(県高野連などのホームページより)



〈花巻人シリーズ 第二回〉

「真臣乳と亮次郎」

瀨川 紘一

〈プロフィール〉

明治といふ時代に生まれ育つた真臣乳と亮次郎という、誠に対照的な生き方をした花巻人について、その足跡を尋ねます。二人の姓はともに照井ですが、この姓は現在でも花巻市が最も多く、花巻オリジナルの姓と考えて良いようです。まずは、この照井という姓について探ってみたいと思います。



照井 真臣乳

照井真臣乳は明治6年(1873年)に稗貫郡西12丁目村で生まれ、照井亮次郎は翌明治7年(1874年)に同郡東12丁

目村で生まれています。二人の生家は近く、この二つの村はもとも島村という一つの村でしたが、天正時代(1573~1592年)に東西両村となつたようです。島村は、延歴20年(801年)頃、坂上田村麻呂の軍に参軍した照井武弘主従が土着したところ、当時は照井の庄と称されており、従者7人は姓を島氏と名乗つたことで島7家と呼ばれていました。

中世には、稗貫氏の配下で極めて有力な武将だった12丁目氏(もと伊藤氏)が西12丁目にある12丁目城を居城とし、一方東12丁目には薬師館という山城があり12丁目氏一族の照井氏が居城としていたという説が有力です。ともに稗貫氏の居城鳥谷ヶ崎城

の南を固める重要な拠点だったようです。

遡って、照井武弘の祖は藤原姓であったようですが、土着した後に照井の庄から照井の姓を取つたのではないかと推測されます。それでは、照井の庄の照井は何処から来たのでしょうか。一説には、薬師館は蝦夷の首魁の阿三流為の居城だったのではないかと言われています。「阿」はまとも役という意味で、阿三流為は「阿・照井」で照井一族のまとも役だったとの説もあり、そこから照井の名前が付いたのではないかと考えられます。ちなみに、阿三流為は延歴21年(802年)に坂上田村麻呂に降服していただきますし、時代は下りますが鳥谷ヶ崎城は母が蝦夷であったと伝えられる安倍頼時(貞任・宗任の父)の居城だったとの説もあることから、花巻地方の蝦夷にテルイの名前があったことは推測に値すると思います。

又、数千年遡りますと、蝦夷に繋がる縄文時代の遺跡が花巻には67カ所もあり、島村に近い高木には猿ヶ石川沿い

に最も古い上台遺跡があります。花巻の歴史は、石器時代に始まって縄文時代、そして弥生時代から古墳時代、さらに安倍一族から藤原三代の時代へと続き、中世の稗貫氏の時代から、北松齋公に始まる南部藩の近世江戸時代を経て、明治という近代を迎えます。

冒頭でこのように照井の姓の由来を探りながら、花巻の歴史を辿つたのは、真臣乳と亮次郎の事績を紐解くにあたり、花巻の長い歴史と後述する独特な風土が二人の生き方に色濃く反映されていると考えたからです。

1 二人の生い立ち

照井真臣乳は、神官の父照井清見と母八重子のもとに生まれました。清見は西12丁目の照井家の11代目となっていますが、総本家は43代続いているとのこと、清見の11代前の当主が1477年頃に12丁目村に移住して来たこととされており、もとの姓は藤原だったと伝えられています。照井清見は明治39年から数年間飯豊村の村長を務めており、

この地域の名士でした。東12丁目の照井家では西12丁目の照井家を本家と呼んでいたようで、両家の正式な関係ははっきりしません。親類付き合いをしていたことは間違いないようです。又、真臣乳は独子でしたが、後に生涯信仰をともしする笹間村の東光寺住職轟木東林の三男斎藤宗次郎は4歳下の又従弟となります。

真臣乳は、明治12年(1879年)に西12丁目村の愛育小学校に入学、尋常高等小学校を経て、岩手県尋常師範学校に入学します。明治28年(1885年) 同校を卒業、22歳となった真臣乳は4月に里川口尋常小学校の訓導となり、教育一筋の生涯がここからスタートします。真臣乳が35歳の時に、同校の5年生(11歳)になった宮沢賢治の担任となったことはよく知られています。

いるところまでしか迎れません。父の亮蔵も矢沢村の村長を務めるなど村の名士で、社会事業に多くの寄付を行い、医師としても無料で治療を行い表彰を受けています。兄の敬三も眼科医となり、後年盛岡医師会の会長を務め、亮次郎の良き後援者となります。

亮次郎は、明治13年(1880年)に東12丁目村の小袋下等小学校に入学、「矢澤村郷土教育資料」によると、少年時代の亮次郎は「幼少既二霸氣二富三且活発ナル個性ヲ有シタリキ」と記されています。明治21年(1888年)に稗貫高等小学校を卒業、翌年から横手市にいた兄敬三の診療所で調剤に従事します。その後明治23年(1890年)に上京し物理学校の校外生となりますが、どのような心境の変化があったのかわかりませんが、明治24年(1891年)に当時の東北の工

リット校であった宮城農学校に入学します。農業と海外移民への関心が同校入学へと向かわせたのではないかと推測されます。(亮次郎の記述は、川

一方の照井亮次郎は、医師の父亮蔵と母マスの次男として生まれました。東12丁目の照井家の家系は、亮蔵の3代前の照井元周が文政4年(1821年)に亡くなって

川



照井 亮次郎

2 二人にとつての明治という時代

路賢一郎著「シエラマドシの熱風」(以下略)。

これが二人の生い立ちですが、その後照井真臣乳は生まれ育つた花巻で長年にわたり、『愛と正義』を教育の神髄として(斎藤宗次郎の「照井真臣乳兄逝く」より)教育活動に専念、又、内村鑑三の弟子となつてキリスト教の信仰に生涯を捧げ、まさに花巻という土地の「地の塩」(新保祐司著「明治の光・内村鑑三より」となります)。

一方、照井亮次郎は海外雄飛の道を選び、国境を超えてメキシコの地に日本人とメキシコ人による「コミュニティ」を設立するべく、自由と平等を目指したユートピアの建設に取り組みます。しかし、やがてメキシコ革命の影響などで頓挫、その後死してメキシコの土となるのです。

一方、照井亮次郎は海外雄飛の道を選び、国境を超えてメキシコの地に日本人とメキシコ人による「コミュニティ」を設立するべく、自由と平等を目指したユートピアの建設に取り組みます。しかし、やがてメキシコ革命の影響などで頓挫、その後死してメキシコの土となるのです。

二人にとつての明治という時代は、二人が維新から続く明治の時代に、どのような圧力と緊張を背負つて生きたのかを理解しておく必要があります。明治という時代について私なりに考察しながら見て行きます。

(1) 明治維新とは

→その成果と限界

明治維新の初期は嘉永6年(1853年)のペリー来航や安政5年(1858年)の日米修好通商条約締結の頃とされまゝです。そこから10数年の間に、一気に慶応3年(1867年)12月の大政奉還から翌年の王政復古の大号令で明治元年(1868年)となり、明治2年の版籍奉還から明治4年の廃藩置県へと進みまゝです。その後、明治政府は、憲法の発布や国会の開設など立憲主義の導入、殖産興業や富国強兵などの政策によって急速に近代化的な国家体制を築いていきます。

一方、戊辰戦争では花

巻城下でも奮武隊(武士、貴連隊(同心)、報国隊(町方各数十名)が組成され、明治元年には奮武隊は鹿角へ貴連隊は沢内へ出陣します。しかし、戊辰戦争に敗れ明治4年には花巻城が廃城となります。真臣乳と亮次郎が生まれ

た頃には、まだまだ維新の混乱と緊張が残つており、一方で、大きな時代の波がこれ迄とは全く違つた国家体制を構築しつつあつたのです。

さて、明治維新から明治政府のその後の動きを見てみると、日本の近代化にとつて大きな課題が残されてしまつたようにも思います。明治維新は、「良きにつけ悪きにつけ、『武士の革命』だつた、しかも『武士の革命』としての明治維新は明治13年(1880年)をもつて終焉し、その後の明治政府は合理主義的な『文武の官僚』によって運営されることになる(坂野潤治著「未完の明治維新」より)と分析されていま

す。その変化の中で、革命家武士たちが目指すところとした理想が忘れ去られることはなかつたのだらうかとの疑問が湧きます。

(2) 維新から明治時代へ
→その変質について
そこで、明治23年(1890年)の教育勅語公表、帝国議会開設、大日本帝国憲法施行といつ、近代天皇制国家成立にとつて大きな節目となつた、明治政府の一連の重要施策の背景について見てみます。

幕末から維新、そして明治時代にかけて日本は西洋文明を様々な分野で受容しますが、明治のリーダー達は「ヨーロッパ化を急ぐあまり『機能的思考』に陥つていた(三谷太一郎著「日本の近代とは何であつたか」より)と指摘されています。伊藤博文は憲法制定に当たり、明治21年(1888年)の枢密院の審議において、「西欧でキリスト教が果たしている役割りを担つるのは『皇室』である」と断案し、キリスト教の機能的等価物として『人格化した天皇制』の導入を主張(同著より)、儒教朱子学、後には水戸学や篤胤学の影響などもあり、その構想に沿つて国家体制が整えられて行きます。教育勅語も「皇祖皇宗を道徳の本

源とする」とあるように、人格化した天皇制を補い強化するため、天皇の「道徳の立法者としての立場」(同著より)の確立が目的となり、その後半世紀以上にわたつて国民の教化に大きな影響を及ぼすことになりました。

ところが遡つて慶応4年3月には、明治天皇は新政府の「国是」として「五箇条の御誓文」を發布しますが、第1条の「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」は、明らかに西洋の民主政論の影響を受けているように思われます。幕末の儒学者横井小楠(1809~1869)は、「国是三論」(1860年)で西洋諸国の議會制を高く評価し日本への導入をいち早く提唱していますが、「この構想が明治新政府の五箇条の御誓文に引き継がれている」(対部直善「維新革命への道」より)との指摘もあります。新政府が維新直後に目指した政治体制は、天皇の人格化による天皇制国家とは大きく異なつていたと思ひますし、民主制の導入のために必須であつた日本人の意識革命も回避されることになつたように思ひます。

又、明治23年に公表された教育勅語についても、明治5年(1872年)には既に太政官(新政府)から学制頒布がなされており、「教育の機会均等」、「実学主義」、「個人主義」という三つの極めて民主的な教育方針が示されていきました。国民の教育という最も重要な政策においても、維新直後に目指した教育とは全く違つた方向に進んでしまひます。

このように、明治23年を境に明治という時代が大きく変質していったことが何われますが、この節目の年に真臣乳は17歳、亮次郎は16歳になっています。従つて、感受性の強い少年期から青年期に差し掛かる頃はまだ明治の変質以前であり、二人はまさに明治維新という近代革命の申し子であつたと言えます。そしてその後の二人の生き方に大きく影響することになりま

(続く)



《首都圏で「花巻」と出会うコーナー》

野球編

富士大、2024ドラフト会議で6名の指名

昨年10月24日に行われたプロ野球ドラフト会議で、富士大学から支配下4名、育成2名の合計6名が指名されました。これは大学ではドラフト会議の過去最多の指名です。

支配下では麦谷外野手はオリックス1位、佐藤投手が広島2位、安徳投手がソフトバンク3位、渡辺内野手が広島4位で指名され、育成では坂本捕手が巨人、長島投手がロッテから指名されました。

富士大学は1965年奥州大学として花巻市に開校、1976年に富士大学となりました。富士大学はスポーツでの活躍が素晴らしく、特に野球は2009年に全日本大学選手権大会準優勝、2023年には明治神宮野球大会ベスト4になっています。昨年秋の北東北大学リーグでも優勝、明治神宮野球大会東北代表選抜大会の決勝で仙台大に勝利し代表を勝

ち取っています。プロ野球界にもソフトバンクの山川選手や西武の外崎選手など、多くの卒業生を送り込んでいます。

富士大学は、比較的無名の高校選手を4年間でドラフト候補生まで育て上げるノウハウを持っているようです。今回のドラフト後に安田監督は、「この学年が入った時、しっかりやれば6～7人はプロに進めると感じていた。託した思いが今日実ってホッとしています」と話しています。

ネットでは「花巻が野球の聖地になりつつある」との声もあり、花巻出身者にとっては嬉しい限りです。

(ヤフーニュース、岩手日報、富士大ホームページなどより)



菊池雄星選手の屋内複合野球施設「KOH」がオープン



「菊池雄星プロジェクト K.O.H」は、昨年11月17日にオープニングセレモニーがあり菊池雄星選手や上田市長等による始球式やテープカットが行われました。

菊池雄星選手(33)が自らプロデュースした「King of the Hill」(MLBでのエースに対する敬意をもった呼び方)と名付けられた屋内

複合野球施設は、花巻市の母校花巻東高校に隣接する敷地内に、約1400㎡の立派な施設となって完成しました。施設には、二つのブルペン、バッティングエリア、トレーニングエリア、リカバリーエリアなどがあり、世界最先端の

機器も完備しています。さらに、カフェラウンジやMLB選手のサインボールや菊池選手のユニホームなどを展示したギャラリーも備わっています。

菊池選手は会見で、自らを育み温かく見守ってくれた故郷岩手への感謝を話しました。「僕は花巻東を選んでなかったらメジャーにはいなかった」、「2009年の甲子園出場で応援してもらい力をもらったので、いつか何らかの形で思っていた…」と愛する岩手への「恩返し」という発言もありました。又、自らの経験から、「大事なことは『僕も出来る』と思うこと、科学的な知見を基に努力し一生懸命やることの大切さを学んで欲しい」との発言もありました。

父親の実家が東和町谷内にある菊池選手のこの大きな贈り物「KOH」は、花巻東、富士大学など、野球の聖地となりつつある花巻にとって、まさに鬼に金棒のように思います。(スポーツ報知、岩手日報などから 編集部)

会費納入のお願いと納入状況の報告

①令和6年度会費納入のお願いと納入状況

在京花巻人会は皆様からの会費で「在京花巻人のつどい」「会報の発行」「歩こう会」などの活動を行っています。会員の皆様には令和6年度の会費の納入をよろしくお願ひ致します。

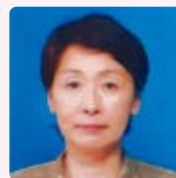
6年度の会費は6月(72号)発送の会報に同封した振込用紙でお願いします。尚、振込用紙の会費は2,890円となっていますが、今年度より加算料金110円が必要なくなりましたので3,000円に訂正してお振込をお願いします。

在京花巻人會會長 瀬川紘一

□座名義 在京花巻人會
□座記入番号 00240-6-111794
金額 3,000円

これまでの令和6年度の会費納入は、11月現在200件、金額578,000円です。会員皆様のご協力に感謝しお礼を申し上げます。

会計担当 高橋良光、千葉百合子



在京花巻人會新理事のご紹介

《お知らせ》

鎌田澄江 (石巻谷中47年生)
石巻谷出身、東京都小平市在住です。今から7年前、還暦を過ぎてから、タクシードライバーを目指して上京しました。人生には上り坂、下り坂、まさかの坂があると言われていました。考えたこともない決断でしたが、花巻人會とのご縁を大切にしたいと思っています。